

総領事館だより

マレーシア歴史探報（博士とぺにゃんの旅シリーズ・特別編サバ州）



博士：ぺにゃんよ、どうしても今回はサバ州なんじゃ！他にも行っていない州があるのに！
ぺにゃん：博士、どうしてもサバの味が忘れられなくて。って、そのサバとちゃうにゃー。
博士：ぺにゃんは関西人じゃったのか…。仕方ない、今回は特別じゃぞ。サバ州はボルネオ島の東側に位置しており、インドネシアに隣接、海を挟むとフィリピンという位置じゃ。東南アジアで最高峰の山、キナバル山があるところじゃな。キナバルとは「中国の未亡人」という意味だそうじゃ。
ぺにゃん：ほうほう。博士！！今気づいた！ここは、外務省危険情報では渡航中止勧告がでているにゃ！また、外務省の統計でも在留邦人は2名のみとなっているにゃ。
博士：そうなんじゃよ。実は、サバ州の東海岸地区のサンダカン、ラハダットゥでは海賊の出没や誘拐事件が多くて、一部の地域で渡航中止勧告が未だにでているのじゃ。仕事で行くにも十分注意する必要があるのじゃぞ。何故勝手に行ったのじゃ（怒）！
ぺにゃん：ぶるぶる。知らなかったにゃ。そんなに恐ろしいところだったとは。でも博士、明治、大正の頃は日本人がたくさんいたと聞いているにゃ。この前、ペナン日本人墓地を参拝した時に、偶々そこに出会った人（注：上のめがねの人）から日本人墓地に眠っている「からゆきさん」の話聞いたのにゃ。それで、「からゆきさん」という言葉を実質的に世の中に広めた山崎朋子さんの「サンダカン八番娼館」を読んで勉強したにゃ。
（「からゆきさん」とは「唐人行」「唐ん国行」のつづまったもので、幕末から明治、大正中期までの間、祖国日本を後にした海外娼婦を意味する。引用：サンダカン八番娼館 山崎朋子著）
博士：そのとおりじゃ。この本が世に出ることによって(昭和47年5月25日)、それまで埋もれていたサンダカンの日本人墓地が、本を読んだ在留邦人の手によって発見されたのじゃ。
ぺにゃん：すごいにゃ。山崎さんや当時の在留邦人がいなかったら、きっと未だにこの日本人墓地も埋もれたままになっていたんだにゃ。山崎さんの強い意思が感じられるにゃ。



住所：Jalan Istana,90000 Sandakan Sabah,Malaysia（設立時期は不明なるも明治後期と考えられる）

写真説明：写真中央「サンダカン八番娼館」の登場人物の「木下クニ」の墓標が見られる。

写真右端「サンダカン八番娼館」の跡地

ぺにゃん：僕が撮影したのが、平成30年10月31日にゃ。実は、この日は奇しくも山崎朋子さんの没年月日だったにゃ。偶然とはいえ、山崎さん、亡くなる最後にきっと誰か（ぺにゃん）に見てもらいたかったんだろうにゃ。ご冥福をお祈りします。

ペにゃん：サンダカンの次の目的地はタワウにゃ。タワウはサバ州では3番目に大きな町にゃ。にゃんと、日本人が開墾した場所にゃ。明治期から昭和初期にかけて、^{くほらふきのすけ}久原房之助がゴム園等を開墾したのにゃ。久原財閥（久原房之助）は日立製作所や現在の日産自動車、JXTGホールディングスの基盤を作った人でもあるにゃ（てへ、カンニングしたにゃ：セニョームタワウと久原財閥、南洋の五十年より引用）。当時は、200人以上の日本人がいたという記録もあるにゃ。

博士：そのとおりじゃ、ペにゃんよ。だから、未だにタワウでは、彼らの功績をとって、Jalan KuharaやJalan Dr Yamamotoといった道路の名前に日本人の名前が残っているのじゃ。しかし、現地の人も、もう昔のことを忘れておってな。Jalan Dr Yamamotoは山本医師からその名前を取っているのに、一部のマレーシア人は山本五十六から名前を取ったと勘違いしているのじゃ。ペにゃんよ、日本人が残した歴史を忘れるでないぞ。



写真説明：写真右端(現地の人に聞き込んだ結果、山本医師が経営する病院跡地)

ペにゃん：博士！忘れないにゃ。現地には、タワウの日本人墓地もあったにゃ。ここも明治後期から存在するにゃ。実は過去には日本人墓地が2カ所存在するという記録があるけれど、今は一つだけになっているにゃ。



目下、マレーシアの歴史を飼って勝手に研究している（略してマレ研）マスコットキャラクター。活動範囲はペナン、ペラ、ケダ、ペルリス、トレンガヌ、クランタンが限界（今回はちょこっと旅行しちゃいましたにゃ）。



マレ研顧問でちょっと物知り。